

長野県新総合交通ビジョン検討委員会名簿

(敬称略、五十音順、役職名は平成 25 年 3 月 15 日現在)

氏名	役職	備考
青木 真美	同志社大学 商学部 商学研究科 教授	
石井 晴夫	東洋大学 経営学部 経営学科 教授	
久保田 勝士	長野県町村会 総務文教部会長 (高山村長)	
黒川 洸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事	委員長
塩谷 さやか	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 准教授	
鈴木 文彦	交通ジャーナリスト	
高瀬 達夫	信州大学 工学部 土木工学科 准教授	
原田 昇	東京大学 大学院 工学系研究科 研究科長	委員長代理
益山 代利子	松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 准教授	
三木 正夫	長野県市長会 総務文教部会長 (須坂市長)	
水本 正俊	社団法人 長野県経営者協会 専務理事	
柳澤 吉保	長野工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	

【オブザーバー】

氏名	役職	備考
桑田 龍太郎	国土交通省 北陸信越運輸局 企画観光部長	平成 24 年 7 月まで 岩城 宏幸
金尾 健司	国土交通省 関東地方整備局 企画部長	
田村 秀夫	国土交通省 中部地方整備局 企画部長	平成 24 年 6 月まで 佐々木 一英

長野県新総合交通ビジョンの検討経過

開催等年月日	内 容
平成23年12月5日	・長野県新総合交通ビジョン検討委員会 設置
平成24年2月9日	・市町村長等との意見交換会（飯伊地域） ・現地調査（リニア中央新幹線事業実施予定区域周辺）
平成24年2月10日	・市町村長等との意見交換会（上伊那地域） ・現地調査（信州まつもと空港）
平成24年3月29日	・市町村長等との意見交換会（諏訪地域）
	・町村長等との意見交換会（木曾地域）
平成24年4月19日	・市町村長等との意見交換会（松本地域）
	・市町村長等との意見交換会（大北地域）
平成24年5月31日	・市町村長等との意見交換会（長野地域）
	・市町村長等との意見交換会（北信地域） ・現地調査（北陸新幹線飯山駅周辺）
平成24年6月13日	・論点整理（長野県交通の現状と将来への視点について）
平成24年7月10日	・市町村長等との意見交換会（佐久地域） ・現地調査（中部横断自動車道白田IC（仮称）周辺）
平成24年7月11日	・交通事業者との意見交換会 （県内民営鉄道4社、長野県タクシー協会、長野県バス協会）
平成24年8月8日	・市町村長等との意見交換会（上小地域） ・交通事業者との意見交換会 （JR西日本、JR東日本、JR東海）
平成24年9月11日	・論点整理（長野県が目指す交通の将来像について）
平成24年10月16日	・論点整理（施策の方向について）
平成24年12月14日	・長野県新総合交通ビジョン素案検討
平成25年1月21日	・長野県新総合交通ビジョン案検討
平成25年1月29日 ～2月28日	・パブリックコメントの実施
平成25年3月15日	

用語解説

<あ行>

温室効果ガス…………… 11
二酸化炭素等、熱が地球の外に出て行くのを防ぎ、地球を温室に入れたような状態にする気体の総称。

駅勢圏…………… 36
鉄道駅を中心としてその駅を利用する人が存在する範囲。

<か行>

カーフリーデー…………… 28
街の中心部において1日マイカーを使わない地区を創り出し、車のない都市空間を体験すること。

緊急輸送路…………… 29
災害時等に防災拠点や市町村役場を連絡する輸送路として、長野県地域防災計画に位置付けられている道路。

計器着陸装置 (ILS)…………… 4
着陸進入する航空機に対して、視界が悪い時でも電波を使って安全に滑走路上まで誘導するシステム。

公共交通におけるバリアフリー化…………… 10
鉄道駅にエレベーターを設置するなど、高齢者や障害者等が公共交通機関を利用しやすいようにすること。

公共交通におけるユニバーサルデザイン化…………… 10
乗降口の段差を1段としたバスを導入するなど、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が公共交通機関を利用しやすいようにすること。

高速バス…………… 7
都市間を結び、概ね50km以上運行し、停車する停留所を限定した乗合バスで、高速道路を利用しない路線もある。

国際プログラムチャーター便…………… 42
海外と国内との間を複数回連続して運航されるチャーター便。

コミュニティバス…………… 8
地域の交通空白地域において地方公共団体が主体となって、小型バスや定額運賃で運行するバス。

<さ行>

三次医療圏…………… 10
専門性の高い、高度・特殊な保健医療サービスが行われる区域。

スマートインターチェンジ…………… 19
高速道路の本線やサービスエリアなどに設置されているETC専用のインターチェンジ。

ゾーン30…………… 18
生活道路が集積している区域を「ゾーン」として設定し、ゾーン内の車の最高速度を30km/hに規制すること。

<た行>

チャーター便…………… 4
主に定期便が運航していない路線に、利用者のニーズに合わせて運航される不定期便のこと。

デマンド型交通…………… 8
電話による予約に基づき、利用者の要求（デマンド）に応じてバス・タクシーを運行するサービス。

ドクターヘリ…………… 27
救急医療用の医療機器等を装備し、救急医療の専門医及び看護師が同乗し救急現場等に向かうヘリコプター。

<な行>

二次医療圏…………… 10
高度・特殊な医療を除いた入院医療や包括的な保健医療サービスが行われる区域。

二地域居住…………… 22
都市に暮らす人が、農山村等の同一地域に中長期的かつ定期的に滞在する居住形態。

乗合タクシー…………… 8
バス車両ではなく、ワンボックス等の車両を使用して運行するサービス。

ノンステップバス…………… 26
乗降口のステップ（段差）を無くし、より乗降性を高めたバス。

<は行>

バス専用レーン…………… 24
バスの定時運行を確保するため、区間や時間帯を限定して、バス専用とする通行帯。

パークアンドライド…………… 17
自宅から自家用車で最寄りの駅またはバス停まで行き、公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう移動方法。

ハブ機能…………… 39
周辺各地へ移動できる様々な交通機関が集中する中心拠点機能。

ビジット・ジャパン・キャンペーン… 13
外国人旅行者の訪日を飛躍的に拡大させることを目的に、国と地方公共団体、民間が共同で取り組んでいるキャンペーンの総称。

物流のボトルネック…………… 34
道路の車線減少などにより発生する渋滞などが、円滑な物流の妨げとなること

<ま行>

モビリティ・マネジメント…………… 28
「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝賢く）利用する状態」へと自発的に変えていく取組。

<ら行>

旅客地域流動調査…………… 6
国土交通省が、鉄道、自動車、航空等の各輸送機関別に国内地域間の輸送状況を明らかにし、需要予測や施設整備計画立案等の基礎資料とすることを目的に実施している調査。

<わ行>

ワンステップバス…………… 26
乗降口のステップ（段差）を1段だけとし、乗降性を高めたバス。

<英字>

- A T S**…………… 31
自動列車停止装置。衝突防止などのため、列車のブレーキを自動的に動作させて停止させるなど、衝突や脱線などの事故を防ぐ装置。
- B R T (バスラピッドトランジット)**
…………… 24
バスレーンの導入など走行環境の改善により、定時性や速達性を確保したバスをベースとした次世代の交通システム。
- F G T (フリーゲージトレイン)** …… 39
新幹線と在来線を直通運転することができるよう、車両の車輪幅を軌間(ゲージ)にあわせて自動的に変換する電車。
- I C カード**…………… 24
乗車時・降車時に読取機にカードを接触させるだけで情報を読み取り、運賃の支払いが可能なカード
- I C T (情報通信技術)** …………… 39
情報や通信に関する技術の総称。
- L R T (ライトレールトランジット)**
…………… 24
低床式車両の活用などによる乗降の容易性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の路面電車。